

見立て講座～股関節屈曲制限～

今回は、
股関節の屈曲時痛についての
見立てについてお話していきます。

まず、1番多いと言うか、
意外に結構あつたりするのが、
盲腸のオペとかされている方です。

そうした方というのは、
右側の股関節を屈曲していった時に
引っかかり感が結構出る方が多いです。

その理由ってというのは、
術後の線維の線維化だったりとか、
癒着が起きていたりする場合があるという事。

ですから、まずは左右で差があるとか、
右側だけ顕著に制限があるなって場合は
最初のスクリーニングでの考察が大事です。

もう一つが、腸腰筋の収縮不全ですね。
筋肉というどうしても伸びないで問題が起きる。
...ってということが一般的には考えられてますよね。

この問題を簡潔にいうと、
上手く収縮していかないってことです。

そうした際に腸腰筋の所が、
屈曲でグーッと縮んでいく時に
上手く線維が滑り込んでいってくれない。

この状態があつたりするので、
そこをチェックしていく必要があります。
多くの場合だと屈曲運動の早い段階から
代償がおこったりします。

腸腰筋は恥骨上を走行する際に、
股関節を引き上げる滑車の役割をしますから
それができない故に代償が起こるわけです。

そして、もう一つが、
鼠径靭帯が非常に緊張している状態です。

そうなってくると、
屈曲していった時に筋肉との
引っかかりが生じて痛みが出ます。

その場合は骨盤自体の歪みだったり、
周辺の筋肉の緊張が相互していたり、
こういう事もあるのでそのあたりを確認してください。

だんだん深い部位の線維になっていくと、
今度は関節包とか靭帯の緊張・癒着...
っていうものになってきます。

その場合ってというのは、
屈曲だけではなくて回旋だったりとかにも
制限が出てたりする場合がございます。

もし、股屈曲運動がだけでなく、
回旋でも引っかかるようでしたら
関節包・靭帯群の問題が特定を
理学検査で行う必要があります。

ぜひ、参考に目の前の患者さまの症状を
考察し、検査し、施術してみてください。